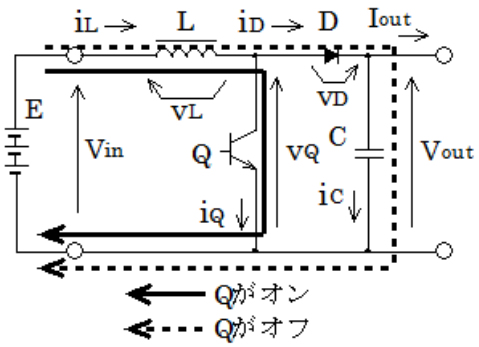
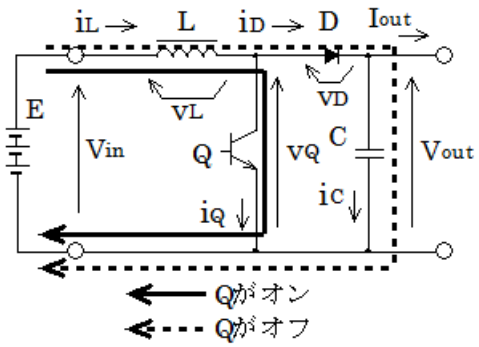
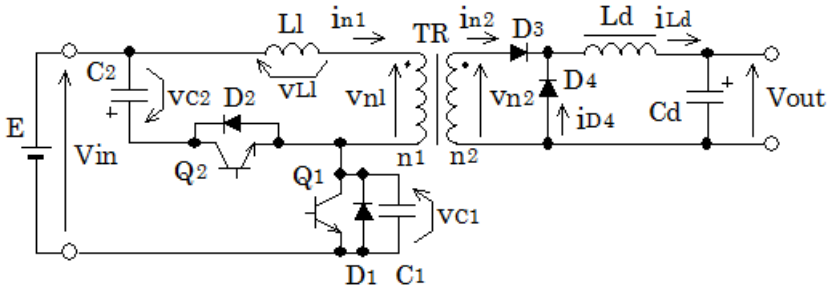
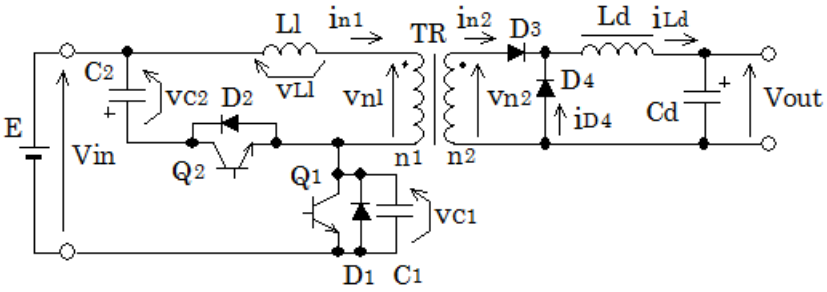
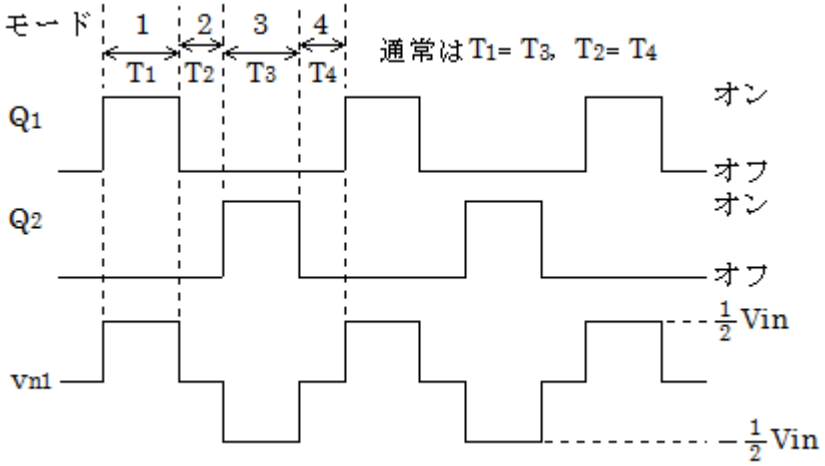
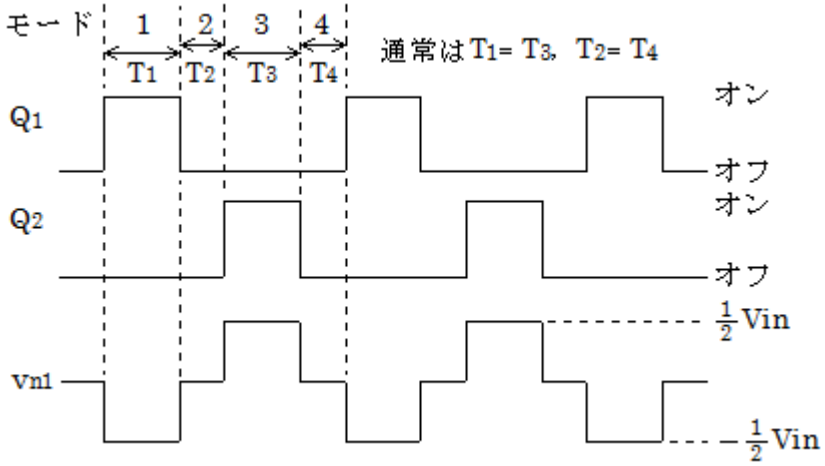
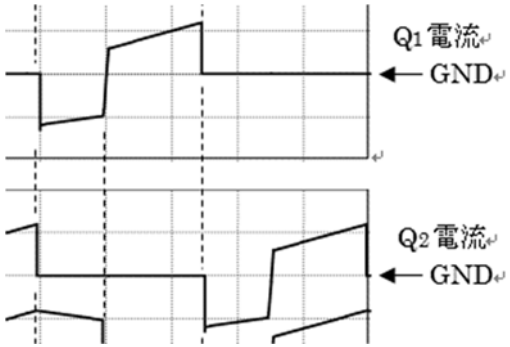
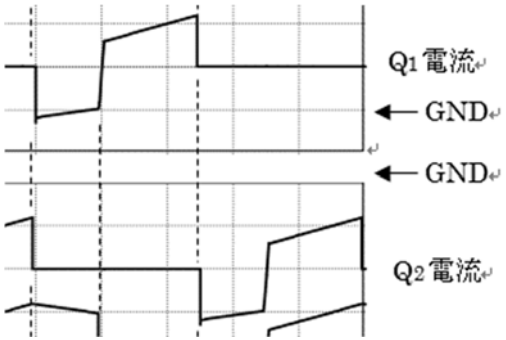
「DC/DC コンバータの基礎から応用まで」初版 1 刷 正誤表

	場所	正	誤
1	p.47 図 4.3	 v_D はアノードから見たカソードの電圧	 v_D はカソードから見たアノードの電圧
2	p.47 下から 7 行目	$V_{out} - v_D = v_Q$ ‥‥上記 v_D の変更に伴う修正	$V_{out} + v_D = v_Q$
3	p.137 図 5.17	 v_{C2} は正	 v_{C2} は負

「DC/DC コンバータの基礎から応用まで」初版 1 刷と 2 刷 正誤表

	場所	正	誤
1	p.79 図 4.29 の v_{n1}	 上記のように、v_{n1} はモード 1 で正、モード 3 で負が正しい	 v_{n1} が正負逆転している

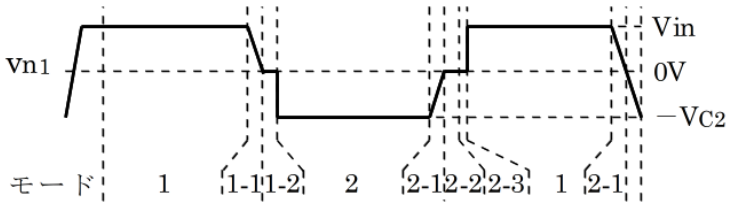
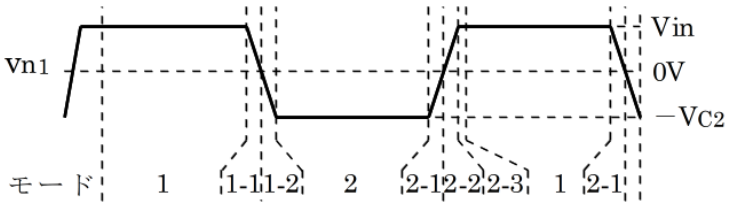
「DC/DC コンバータの基礎から応用まで」初版 1 刷、2 刷、3 刷、 正誤表

	場所	正	誤
1	p.141 (5.26)式	$v_{Ll} = V_{in} - v_{C1}$ v_{Ll}（ブイエルエル）が正しい。	$v_{L1} = V_{in} - v_{C1}$ v_{L1}（ブイエルイチ）ではない。
2	p.147 図 5.24(a)	 Q1 電流と Q2 電流の GND の位置を修正	 Q1 電流と Q2 電流の GND の位置が間違い
3	p.154	$v_{C1} = \frac{1}{C_1}\int_0^t \frac{1}{2} i_{nl}(\tau)d\tau$ (5.66) $v_{C2} = \mathrm{Vin} - \frac{1}{C_2}\int_0^t \frac{1}{2} i_{nl}(\tau)d\tau$ (5.67)	$v_{C1} = \mathrm{Vin} - \frac{1}{C_1}\int_0^t \frac{1}{2} i_{nl}(\tau)d\tau$ (5.66) $v_{C2} = \frac{1}{C_2}\int_0^t \frac{1}{2} i_{nl}(\tau)d\tau$ (5.67)
4	p.154 下から 2 行目	したがって、モード 1-1 の期間中に v_{C1} は容易に Vin まで上昇し、v_{C2} は 0V まで低下する。	したがって、モード 1-1 の期間中に v_{C1} は容易に 0V まで低下し、v_{C2} は Vin まで上昇する。

次頁につづく

「DC/DC コンバータの基礎から応用まで」初版 1 刷、2 刷、3 刷、 正誤表　（前頁からつづく）

	場所	正	誤
5	p.134 (5.20)式	$i_{n2}=\frac{n_1}{n_2}\frac{1}{L_l}V_{in}t$	$i_{n2}=\frac{1}{L_l}V_{in}t$
6	p.135	図 5.13 のタイトル‥‥ スイッチ素子 Q の	図 5.13 のタイトル‥‥ スイッチ素子 Q_1 の
7	p.135	図 5.13 の波形の説明‥‥ Q 電流　　Q 電圧	図 5.13 の波形の説明‥‥ Q_1 電流　　Q_1 電圧
8	p.150 (5.59)式	$i_{nl}=I_3-\frac{1}{L_l}\int_0^t v_{Ll}(\tau)d\tau$　　（注：I_3 と $v_{Ll}(\tau)$ は負の値）	$i_{nl}=I_3+\frac{1}{L_l}\int_0^t v_{Ll}(\tau)d\tau$　　（注：I_3 は負の値）
9	p.150 (5.62)式	（注：i_{n1} は負の値）	（注：I_{n1} は負の値）
10	p.174 (5.108)式	$0=-\frac{n_1}{n_2}V_{out}+v_{Lr}+v_{Cr}$	$V_{in}=-\frac{n_1}{n_2}V_{out}+v_{Lr}+v_{Cr}$
11	p.174 15 行目	$v_{n1}=-v_{Cr}\frac{L_m}{L_r+L_m}$	$v_{n1}=v_{Cr}\frac{L_m}{L_r+L_m}$

「DC/DC コンバータの基礎から応用まで」初版 1 刷、2 刷、3 刷、4 刷 正誤表

	場所	正	誤
1	p.138 図 5.18 の Vn1 波形